

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'98

5

月号【1日発行】

かわさき市民
アカデミー

修了式 「市民の自立学んだ」
入学式 「興味深める喜びを」



いまを話す

プラス思考の生き方をすすめる
津田 妙子さん
いまさらの「さ」を「か」に変える人生を
いきるチャレンジ精神

Stage Up 5 月号もくじ/1998年

◆	かわさき市民アカデミー 修了式「市民の自立学んだ」 入学式「興味深める喜びを」	15
□	ミニニュース／編集後記	14
□	会員募集	13
●	学習・文化情報	10
■	はりきってます グループ紹介 藤でインテリア小物を作る 障害者と交流、自立の手伝けする ボランティアサークル・アスパラ 藤美会（幸区）	8
■	ほんねインタビュー いまを話す プラス思考の生き方をすすめる いまさらの「さ」を「か」に変える人生を いきるチャレンジ精神 津田妙子さん	3
◇	表紙絵……早野聖地公園の雑木林 清水幹子さん	

(小誌は再生紙を使用しています)

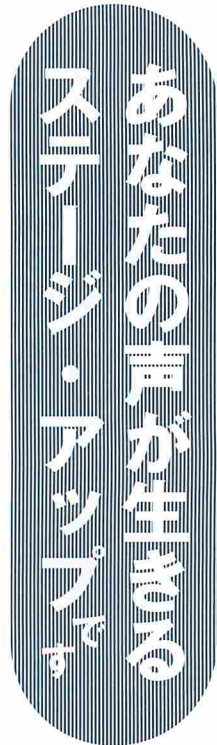
「いまを話す」ゲストのご推薦を

「グループ紹介」の「出前」も…

「市民がつくる 市民が学ぶ 市民が拓く」がコンセプトの生涯学習情報誌「Stage Up」は、市民の方々に支えられ、8年目を迎えました。とくに「ほんねインタビュー いまを話す」と「はりきってます グループ紹介」は、回を重ねるごとに愛読者が増えています。

「いまを話す」ゲストの9割が読者からのご推薦で「ゲスト選考の的確さに敬服。話しに感動させられ、毎号楽しみ」との励ましをいただいています。「グループ紹介」は、スタッフがグループ活動の場に行き取材します。「生き生きとした活動が手にとるよう」「私たちのグループが掲載され、会員が増え活動に張りが出た」などの反響が寄せられています。今後も2つのコーナーの自薦他薦をお待ちしています。また「学習・文化情報」は、開催場所を公共施設や川崎市内に限定せず、市民（在勤者を含む）の多様な活動を支援しています。

ご推薦・ご投稿・ご意見は、電話952-5000(代)かFAX 952-1350のステージ・アップ編集チーム(取材などで留守の場合はご容赦下さい)。



いまを話す

プラス思考の生き方をすすめる

ゲスト

津田 妙子 さん

Vol.64



40歳で主婦
話力の勉強

いまさらの「さ」を「か」に変える人生を

いきるチャレンジ精神

いま、日本人は総自信喪失状態にある。かつて世界から称賛された「経済と官僚システム」が、平成不況で消費も企業倒産も失業率も最悪のうえ、金融・証券をめくり官僚のタカリ・腐敗体質が露呈したからだ。その半面、日本経済の基礎的要因は依然、世界のトップクラスにある。だから「国民の極端なマインドの冷え込みが無くなれば、経済は上向く」との見方もある。高津区の津田妙子さんは、普通の主婦から転身したプラス思考の実践者。「いまさらの『さ』を『か』に変える人生を」と話す。その講演や本が、自信回復につながるかは別として、ご本人のチャレンジ精神的生き方に拍手をおくる人は少なくないようだ。インタビューは伊藤眞弓さん。

——津田さんの著書「プラス・ルネサンスの生き方」(新人物往来社刊)を読ませていただき、経歴も拝見しまして「成功された女性」と感じました。

津田さん 成功したかどうかはともかく、今が楽しいということ は確かですね。

——津田さんの生き方の核になつていっているのはなんでしょうか。

津田さん やはりチャレンジ精神でしょうね。「駄目でもともと、やってみよう」という気持ちとあります。

——その精神が養われ、育った家庭環境について、お聞かせいただけますか。

津田さん ごく平凡な家庭ですよ。父は会社員で母は家において……。でも、途中から父が会社を辞めて、母と一緒に小さな町工場を始めました。ですから、父母が汗水たらして一生懸命に働いている姿を見て育ちました。母は気が強くしつかり者で、父は人が善くてちよっぴりお酒好きでした。弟がいますが、どこにでもある普通の家庭です。

——津田さんのチャレンジ精神が、行動となって成功、開花するのは結婚後ですね。いまのご家族の理解も大きかったと思いますが、津田さん これは傲慢ごうまんといわれるのを覚悟して言いますが、家族が協力してくれたから、今の仕事ができているのではないのです。私の「どうしてもやりたい」という強い気持ちが先にあって「そんなにやりたいなら協力する」という家族の思いが後からついてきたという感じなんです。

——一般的に、長く専業主婦だった女性が、外に出ようとすると、夫が戸惑い、拒絶反応を起こすケ

パワーダウンになる弱音

意思の伝達は態度でも

ースが大なり小なりあるようですが、津田さんのご家族の反応はいかがでしたか。

津田さん 私が話し方の勉強を始めたのは四十歳になってからで



す。「話力研究所」の土・日コースを六回履修しなくてはなりませんでした。主婦の私が毎週家を留守にするわけですが、三度の食事は用意して出かけるんです。それでも、私が帰宅しても家族からの「ねぎらいの言葉」はなく、みんなが不機嫌なのね。原因は、食事の用意はしてあっても「だれがご飯をよそうのか」といった感じのことなんです。「えっ」という感

じでしょ。

——それはそうですね。

津田さん そういう状況であっても「話し方を勉強したい」私が出たのです。朝早く出掛ける前に、デザートの果物の皮もむいて冷蔵庫に入れ「すみませんが行かせていただきます。冷蔵庫にはケーキも入っています」とメモを置いて行くんです。そのうち、家族の理解が少しずつ進んでいったのね。勉強をしたくない一心で、そこまですされたのですか。男女の性別役割分担の固定化の壁、崩すって大変なことなんです。

津田さん 家族も頭の中では私が話し方の勉強をすることに理解をしていたと思います。でも、実際に主婦が家をあげると「こんなはずでは」という気持ちになったんでしょうね。

——ところで、三十代の十年間はお習字の先生でした。その間は、そういう問題は無かったので

すか。

津田さん 家の一部を改造してお習字を教えていたので、そのころは主婦、母親が続けることが出来たんです。けれど、子供たちにお習字を教えて過ごす日常生活から「もつ」といろいろな大人の人に会い、異なった世界に接してみたい」という気持ちが強くなり、そのことは家族に話していたんです。ですから、話し方の勉強をする際、家族とのコミュニケーションはそれなりに取れていると思っていました。今になって思えば、自分の思い込みとか稚拙だった部分もあったと思います。

——今は女性の社会進出が当たり前になりましたが、家族関係で津田さんと同じような経験をしている方も多かったでしょうね。その後のご家族の協力は。

津田さん 今は本当に楽になりました。



津田 妙子 さん

つだ・たえこ＝1947年東京都生まれ。県立多摩高校を卒業後、会社勤務。結婚後、書道を学び書道塾を開く。87年から、カウンセリング、話し方を学ぶ。90年からダイヤモンド教育事業部講師。97年、川崎市の「市民健康デー」で講演。現在、スリーマインド教育センター代表。著書は「コーチング仕事術」（日本能率協会）「プラス・ルネサンスの生き方」（新人物往来社）など。高津区梶ヶ谷で夫と長女の3人で暮らす。長男は独立。

ました。先に帰ったものがお皿を洗っていますからね。

——津田さんは四十代からチャレンジされましたが、女性の場合、四十代のころに意欲のあるなしにかかわらず精神的、肉体的に「尻もちをつく時期」があると聞いていますが、いかがでしたか。

津田さん 四十代は無我夢中でしたね、本当に。五十代になって肉体の衰えを感じ、無茶はできないと思えました。しかし、弱音を吐くのは凄くパワーダウンになるんです。だから、気持ちだけはもつと駆り立てていかないと、と

思うんです。

——これまでに挫折を経験したことはあるのですか。

津田さん やはり「川崎いのちの電話」の相談員に応募して、自

分史を書いたり、適性検査を受け

たのですが、不合格になったこと

でしょうか。私が誘った友達二人は合格しましたので、ショックで三日間泣きましたね。

——なぜ、不合格になったと思

われますか。

津田さん そのころの私は、一方的に話し、相手の話をよく聞いて理解するということができなかった

好きだと思えば嫌われない

津田妙子著 プラス・ルネサンスの生き方

目次の抜粋

序章 私にとつてのプラス・ル

ネサンス 大ショック、身の上相談のカウンセラー試験に落第／四

四歳、「話す」ことで身を立てることを決心／やればできる、「プ

ラス・ルネサンス」との出会い

プラスルネサンスの生き方

第1章 プラス・ルネサンスで

生きよう 人間は、自分が考えた

通りの人間になる／「プラス・ル

ネサンス」って何でしょう／いま

さらの「さ」を「か」に変える人

生を／比較するのは、他人ではな

く、今日の自分と明日の自分

第2章 プラス・ルネサンスの

基本 あらゆる物事をプラスにと

らえる習慣を／イヤな私をステキ

な私に変える法／自分に無いもの

から、あるものに転換する法／過

ぎ去ったことから、これからの未

来に目を向ける法／自分のやる気

の無さを、他人のせいにしていな

いか

第3章 イヤなことに出会った

ら イヤな事実を、逃げないで直

視しよう／「風呂場」で怒りを洗

第5章 プラス・ルネサンスの

アピール力 自分の顔は、他人に

見ていただくためにある／弾んだ

声は、弾んだ心から出る／攻めの

聴き方、アクティブ・リスニン

グ／言葉を聞くのではなく、感

情を聞け

第6章 プラス・ルネサンスで

夢を持つとう 夢が叶うのは、夢を

持っている人だけ／朝起きたら、

プラスのシャワーを／夜寝る前に、

心のスイッチをプラスに／常に

「二年後の私」をイメージしよう

第7章 プラス・ルネサンスで

感動人生を 大切な時間を大切に

過ごすコツ／一日一日の感動が、

リッチなハートをつくる／感動す

る度に、脳は成長する／相手の立

場に立つとは、相手の心をイメー

ジすること／人は、共感しなければ

動かない／幸せの原点—今を生

きていてなが不足

津田さん 今の私自身、相手が

どんなことを思っているのか全身から感じないとできない仕事をしていますから、十年前に比べたら、いのちの電話相談員に向いていると思います（言葉を選び謙虚に）。話すこと、聞くことの重要性についてはいかがお考えですか。

津田さん 言葉についてですが、相手の気持ちを知るためには、言葉だけでなく態度からも推測する、察しとる努力をすることが大切です。また、話すことについてですが、自分の話で相手に察してもらおうと考えるのは傲慢だと思いませんか。言葉だけでなく態度でもちゃんと自分の意思が相手に伝わるように心掛けることにしています。このことは夫婦・家族関係にも言えることです。「夫だから、自分の考えを言わなくても分かっている」と思いがちですが、私はあえて「お父さんありがとう。さすがね」と言います。すると、その後



——あのご本のなかで「夢は必ず叶う」と書いていますが、なにもなくても必要だと思われませんか。

津田さん 思うだけでは夢のまま終わってしまうわね。大きな夢をまず描いたら、よく分析してみて、まず小さな夢から手をつけることです。常に行動してないと駄目です。

——実際に行動したくても、環境的物質的にそうできない人がいます。そういう人たちに、どういうアドバイスをなさいますか。

津田さん 人生は長いんです。ですから、昨日までの自分に溜め息ついているより、新しい今日を一生懸命生きようとする事です。そうすることによって、何か行動の糸口が見えてくるものです。

——四大証券の一角だった山一証券が自主廃業しました。社員は暗い気持ちで再就職先を探してい

ます。住宅ローンの返済や子供の教育費などで中高年社員はすぐにも就職したいと考えていますが、この不景気です。このように途方に暮れた人達に「プラス思考で」と話してもむなしの気がしますが。

津田さん 生活の基盤が揺らいでいるわけですから、大変なことです。そんなときに「プラス思考で生きなくては」と思うことは、かえって心の負担になると思います。でも、最悪の場合ばかりをイメージして、何も手に付かず、不安に押しつぶされて一日を送っても何にもなりませんから、せめて「今日一日だけは頑張ろう」と考

自治功労賞の受賞者に感動 感謝される人生こそ

目です。

——ご本の中で、ある勉強会に参加した後、先生から「あなたは尊敬されない人間です」と言われたと書いていますが、人から尊敬されたいと思っていますか。

津田さん 尊敬されたいとは思っていませんが、人の役に立ちたいと思っています(きっぱりと)。

——尊敬する方は。

津田さん 尊敬する人というよりは、感謝している人はいっぱい

います。

——人生八十年時代。将来どういう人になりたいですか。



伊藤眞弓さん

伊藤 眞弓さん

いとう・まゆみ＝米国 Grand View College 卒。声優・北川智繪主宰「話芸写」の「語り」と上演音楽を担当。英語教室を主宰し、声の仕事や難民支援のチャリティー語りも。川崎に住んで28年。自宅は中原区新丸子。

津田さん 先日、川崎市の自治

功労賞の授賞式で講演したんです。そして心から感動したの。受賞者の平均年齢は七十歳ですが、自分のことは自分で全部できて、しかも町会長とか自治会長として町の人から頼りにされている方たちなのね。私もあやかりたいと思いましたが。五十になってから特にそう思うんです。年をとっても自分のことは自分でして、人から感謝されるような人生、最高だと思えますよ(満面に笑みを浮かべ)。

——好きな言葉、嫌いな言葉は。

津田さん 好きな言葉は「まだまだ今から、やります。できます。がんばります」。それから「だからこそ」もいいわね。いい言葉は「みんな好き」。嫌いな言葉は「もういままさら、いやです。だめです。できません」です。



「だからこそ」が、どうしてお好きなんですか。

津田さん 挫折も、くやしい思いをしたことも、自暴自棄になっただことも全部ひっくるめて「だからこそできることがある」ということです。

——本の中で「おしつけがましい」という嫌な面も別のとらえ方をすると「説得力がある」という長所になると書いていますが。

津田さん 私がいい例になると思います。講義をするとき、私の言うことが分かってもらえないと気がすまない。分かってもらえない

までがながん言ってしまうので、「押し付けがましい」という短所になります。けれど、短所というのは長所の一定の限界を超えたものですから、その限界を知れば、「説得力がある」長所にもなるわけです。

——では、「おしゃべり」が「話題が豊富」と考えるというのは……。

津田さん 話題が豊富だから、しゃべっちゃうわけですね。話題が無ければ黙っています。私が強調したいのは「視点を変えて、負の見方をしないで、自分に優しい見方をしたほうがエネルギーがわく」ということをアドバイスしているのです。それは「自分を甘やかしていい」ということではないんです。はじめは、言葉のお遊びでもいいから見方を変えて「私っていいな」と自分に対して優しい気持ちになることです。そうすれば、「だから、私はやればできる

のよ」と言い聞かせ、行動に移していけるのです。このことが大切なんです（大きくうなずく）。

——見方を変えるとき、反省や悪いところを直す努力は……。

津田さん それも大事なことです。反省ばかりし過ぎて落ち込み過ぎるケースが多いんです。

——「落ち込んで頭を抱えた末、見出した答え」は無意味ですか。

津田さん そうではないのね。落ち込み過ぎると、浮上するのに時間がかかるの。どんどん反省して、どんどん落ち込んでいく。そういう人、いっぱいいますよ。それじゃ、人生もつたいないでしょ。



反省のしすぎはダメ 自分に優しい見方を

そういう普通の人たちが、心の持ち方を変えるだけで、明るく元気に暮らしていけるといって「プラス思考」のお話を私にして、お役に立たせてもらう。それが私の使命と思っています。

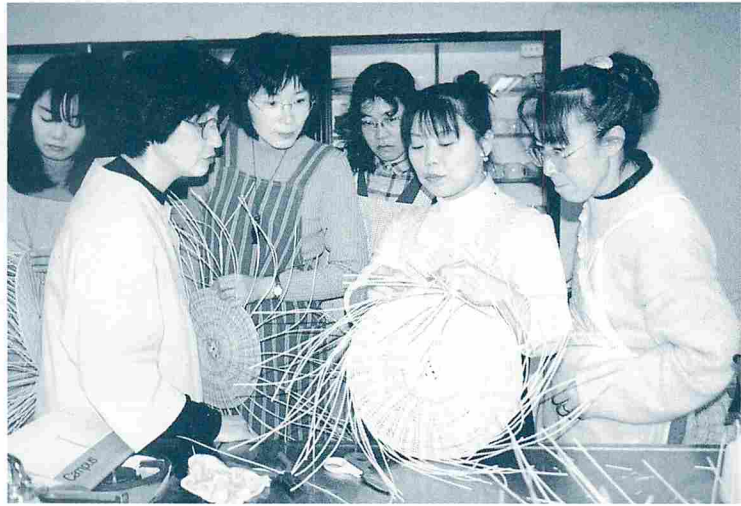
——人間が生きていくうえで、いちばん大切なものは。

津田さん 今の私にとって大切なものは「時間」です。し、その時間の使い方が大事です。読者が、私の著書のどこかにサインを求めるとき「長楽萬年」と書きます。人は死ぬときに「楽しかった」と思って死んでいくために生まれてきたと考えているのです。また、私を生み育ててくれた両親に「楽しかった」という思いで死んでいかないと申し訳ないと思っています。転んだときに「どうして転んだのか。今度は気をつけよう」とプラス思考で気持ちを早く切り替えられるかは、人生を少しでも楽しくするうえで、とても大事なことと思うんです。

——ありがとうございます。

題字は高橋清・川崎市長
構成／富樫恭子
文責／田中 圀

はりきってます グループ紹介



ぬくもりある素材 愛情込めて編む

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 母の笑顔。

植物のつるを編んで、くずカゴやナブキン立てなどの実用品、インテリア小物を作っているのは「藤美会」 〓福岡紀子代表 (42) 独特の「味」が出て、愛着も増す

藤美会 でインテリア小物を作る

藤美会 (幸区)

手作りの楽しさを満喫している。

この日は、前回から取り組んだ鏡のフレーム作り(直径三十センチ)。藤四、五本を束ねて井桁に組んだ中心部から、縦しんが放射状に伸びている。それに籐を交互にくぐらせ編んでいく。会員たちの左右の手が、水に浸し柔らかくなった籐を手際よくからめている。

鏡の大きさまで編み進んだところで、講師の桜井洋子さん(38)が次の手順を黒板に書いて説明する。「ひねり上がりで縦しんの向きを垂直方向にかえます。規則的で単純ですが、数を間違えないようにしましょう」と注意を促す。会員たちは早速作業に取り掛かる。

「うまくいかないわね」「ちょっと違うような気がするけど」とお互いの作品を見比べる。桜井講師がひねり上がりりをゆっくりと実演する。「一、二、飛んでと唱えながらやると間違えませんよ」。その言葉にうなずく会員たち。

新会員の木村みゆきさん(41)に「籐は乾くと折れやすくなるから、時々霧を吹いたほうがいいわよ」と石井香恵子さん(40)がアドバイスする。時には手を休めて、にぎやかに情報交換をするなど和

気あいあいとした雰囲気が漂う。

同会は昨年四月、幸市民館主催の成人学校「藤工芸とラッピング」の受講者が集まり発足し、ひと月に一作の割合で作品を仕上げてきた。藤工芸は比較的短時間で形ができ、全体像が見えてくるのが魅力という。

赤尾けい子さん(46)は「最初の組み方がむずかしいのね。でも出来上りが楽しい。早く上手になっていろいろ作りたい」という。篠崎美重子さん(44)は「作ったものをすぐ利用できて、実用的なのがいいですね。プレゼントしても喜ばれます」と笑顔。

「ここでは集中して作れます。いまの世の中、お金を出せばなんでも手に入りますが、物を作る過程を楽しみたい」と佐野紀代子さん(52)は話す。

福岡代表は「興味のある方の入会を歓迎します。いまは初心者の方の展示即売会に出品してみたいですね」と意欲的。

連絡は幸区小倉二八五の三〇五(588) 0574の福岡さん。

文 / 小誌・菅原純子
カメラ / 小誌・井上徳子

はりきってます グループ紹介

障害者と交流、自立の手助けする

ボランティアサークル・アスパラ

知的障害者や身障者と交流し、自立の手助けをしている「ボランティアサークル・アスパラ」は、二十五人の会員中、障害をもつ六人の会員がいて、家にこもりがちな障害者へ「僕らと一緒に外へ出よう」と、障害者とその父母らにフランクに呼び掛け、月一回、日曜に、外出のときの誘導や楽しいイベントを企画・運営している。

この日は、JR桜木町駅近くの県立青少年センターである「音楽フェスティバル『愛・それは：Part 18』」へ、川崎区田島地域の障害者グループ「つばさ会」の親子八人四組が鑑賞を希望。そこで、アスパラの会の十一人がJR川崎駅改札口で待ち受けサポート。「アスパラ」の会の準備は綿密。障害者と会員のペアを決めてあり、障害者がごく自然に腕を組む。階段を下りる際は、会員が両側で誘導するⅡ写真。同駅で乗車し桜木町駅で下車すると、この日のリ

ダー・服部英司さん(26)が「二列になって。下をよく見て歩きましょう」と注意。

会場に着く。開演までは昼食時

外出で楽しさ実感
身近な共生一緒に

間。久しぶりの外出で、はしゃぐ障害者がお弁当を食べようとしなると、会員は「後でおなかが減っても知らないよ」と注意し「一人で行動できる範囲を広げ、少しずつ自立してほしい」と願う。

川崎駅を出てから、ずーっと親子は別々。子供は会員任せで親同士が談笑する。親に子離れと心のゆとりを持つてもらおうとの配慮。

親の変化が子供の自立を促す。「してあげる」でなく、一歩下がって見守り、出来ないことを助けるが会のモットーです」と会員。中学生から四十代と広い年齢層の同会は、行事ごとにリーダーを決め、全員が責任者を経験する。

同会の発足は九年前。川崎ボランティアセンターの「ボランティア大学」受講者らが「つばさ会」の活動を通して会を発足させた。

佐藤美砂子さん(46)洋輔さん(16)親子は「自然に付き合うよう心がけています」と話す。

山崎洋さん(26)は「一緒に楽しんでいきます」と笑顔。

保育専門学校生、後上美都里さん(20)は「会での体験が施設実習で生き、ほめられます」という。

島田政子・つばさ会代表(53)は「アスパラの皆さんは、親の気持ちに分かってくれます」と感謝。介護福祉士で右腕が不自由な松林理恵さん(25)は「障害者が生活しやすく、歩けるまち」を願う。連絡は、高津区梶ヶ谷四の二三の五二〇(877)6138の松林さん。

文／小誌・山本綾子
カメラ／小誌・菅原純子

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

生かす

学習・文化情報

探していた講座がある



講座・講演

「ボランティア入門講座

◆川崎授産学園」5月26日

～6月30日の毎週火曜10時

全6回。知的障害者施設で

点字・手話、車いすを。無

料。30人(抽選)。申し込み

は5月22日(金)12時までに

☎(954)5011の同

園。新百合ヶ丘駅からバス。

①わくわく実験教室②

やさしい先端技術講座③デ

ジタル多チャンネル時代の

TV像◆東芝科学館」①は

5月9日(土)10時と13時。人

の力と電気の力の違いを解

説Ⅱ写真上。定員250人

②は5月23日(土)13時半。3

百チャンネルのCSテレビ、

デジタル放送の仕組み、今

後のテレビ放送の動向を。

当日先着250人。いずれ

も無料。申し込みは☎(5

49)2200の同館。川

崎駅からバス。

「社交ダンス特別講習会

◆川崎市民プラザ」6月13

日(土)13時。サンバ、タンゴ

の基本と応用。初中級者。

受講料2千5百円。各級男

女先着25人。5月26日(火)か

ら受講料を添えて来館。☎

(888)3131。

①ワープロ基礎②表計

算(Excel)中級③デ

ィターベース初級④Win

dows 95活用⑤プレゼン

テーションソフト初級⑥イ

ンターネットから始めるパ

ソコン⑦同ゆつくりコース

⑧デジタル写真加工◆市産

業振興会館」①は5月18日

(月)20日(火)②は13日(水)③は12

日(木)④は21日(火)⑤は26日

(水)⑥は21日(木)⑦は9～30日

市外局番のないものは044

学習・文化情報

の土曜⑦は12日～6月30日

の火曜⑧は14日(木)。時間は

③18時、他は9時。対象は

①⑥⑦初心者、他は経験者。

受講料は1万1千円～7万

円。定員は先着各8人。申

し込みは☎(548)41

19の同財団情報開発課。

①パソコン基礎コース

Ⅰ②同Ⅱ◆市産業振興会館

①は5月7～21日の木曜9

時。2万4千円。機種NE

Cマ5月9～23日の土曜9

時。2万4千円。機種富士

通マ5月11～27日の月・水

曜18時。2万6千円。機種

東芝②は5月8～29日の金

曜9時。全4回。3万6千

円。機種富士通。対象は①

初心者②は同Ⅰ受講完了程

度。定員先着各8人。申し

込みは☎(548)411

9の同財団情報開発課。

①手漉ぎ和紙はり絵

②トルベイント◆市青少

年創作センター」①は5月

29日～6月19日の金曜。花

絵作り。30人(抽選)②は

5月28日～6月18日の木

曜。小物入れを作る。20人

(抽選)。いずれも9時半。

全4回。成人向け。受講料

2千円、他に材料費。申し

込みは5月12日(火)までに往

復はがきに教室名、住所、

氏名、性別、☎を記し〒2

14100034多摩区三田

2の3303の1、同館。

☎(911)1510。

①陶芸②絵手紙◆市青

少年創作センター」①は6

月13日(土)と14～28日(7日

を除く)の日曜9時半。ろ

くろを使ってカップ、器作

り②は5月31日(日)～6月21

日(7日を除く)の日曜と

13日(土)13時半。小中生が対

象。材料費のみ①千円②千

2百円。各30人(抽選)。

5月12日(火)までに往復はが

きに教室名、〒、住所、氏

名、性別、☎、学校名・学

年を記し〒2141003

4多摩区三田2の3303

の1、同館へ申し込む。☎

(911)1510。

「講習会①春の樹木ウォ

ッチング②ハープの楽しみ

方③病害虫の防ぎ方◆市緑

化センター」①は5月27日

(水)②は6月10日(水)③は6月

17日(水)。いずれも13時半。

教材費②千円、他は無料。

各30人(抽選)。申し込み

は①5月18日(月)②29日(金)③

6月1日(月)までに往復はが

きに講習会名、住所、氏名、

☎を記し〒2141002

1多摩区宿河原6の14、同

所。☎(911)2177。

①老人介護①痴呆、性老

人のケア②同②寝たきり老

人のケア③高齢者・障害者

のための衣服◆登戸ドレス

メーカー学院」①は5月23

日(土)②は5月30日(土)③は6

月6日(土)、講義と実習。い

ずれも14時。各千円。先着

各40人。申し込みは午前中

に☎(911)22221の

同院。向ヶ丘遊園駅から。

①公開講座◆土曜上映会

◆日本映画学校」5月2日

～7月4日(5月9日を除

く)の土曜10時。同校1年

生の授業聴講。毎回、映画

観賞と講演。作品は「女術」

学習・文化情報

参加したい催しがある

(今村昌平監督)「友達のうちはどこ?」(イランの作品)他。講師は今村監督、佐藤忠男・同校長。無料。問い合わせは☎(951)2511の同校・同会係。新百合ヶ丘駅下車。

①はた織り②まつりと芸能◆日本民家園 ①は5月31日〜6月14日の日曜10時。さき織りでテーブルセーターを。対象は中学生以上。2千円。20人(抽選)②は6月7〜28日の日曜13時半。春日若宮おんまつりなどから舞台芸術化する伝統芸能の歴史を。講師は後藤淑・昭和女子大教授ほか。3千円。40人(抽選)。申し込みは①5月18日(月)②25

催し



「ダンスパーティ◆川崎市民プラザ」6月13日(土)18時半。定員200人。当日2千円、前売り千800円。5月1日(金)9時よりプラザフロントで。問い合わせは☎(888)3131。

「将棋大会◆川崎市民プ

日(月)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、☎を記し〒214-0003多摩区枳形7-1-1、同園。☎(922)2181。

「文学講座」町角の灯◆アートホール新町」5月6〜27日の水曜19時。宮澤賢治、島崎藤村、種田山頭火、与謝野晶子の作品を。講師は浜名徳有さん。2千円。当日先着各30人。問い合わせは☎(344)6444の同所。川崎新町駅下車。リバーカレントの会主催。①スペイン語入門②学級を創る・児童生徒指導講座③中国語を楽しむ④しゃべる・話す・語る技術⑤撮影旅行く初夏の自然を。プロ

ラザ」6月7日(日)9時受け付け。棋力別に分かれ総平手個人戦。対象は市内在住・在勤・在学の人。200人(抽選)。費用は千〜5百円。棋力はAは3段以上、Mは初〜2段、Cは1〜3級、Dは4級以下。申し込みは5月15日(金)必着で、往復はがきに住所、氏名、年齢、棋力、☎を記し〒21

と撮る◆玉川大学 ①は5月12日〜7月14日の火曜17時半。1万8千円②は5月16日〜7月18日の第1・3土曜14時半。豊かな学級づくりと教師の演出術を。資料代込み1万5千円③は5月11日〜7月13日の月曜14時。1万8千円④は5月22日〜7月10日の金曜17時半。言葉の表現能力を。2万4千円⑤は5月31日(日)〜6月3日(水)、3泊4日。サロベツ原野と礼文島で撮影。食事、交通費込み15万8千円。定員は20〜30人。申し込みは☎0427(39)8895の同継続学習センター。玉川学園前駅下車。

310014高津区新作1の19の1、同プラザ同大会係。☎(888)3131。日本社会臨床学会総会◆和光大学」5月1日(金)14時、2日(土)3日(日)10時。教育、福祉、医療にかかわる人が「生老病死」を。1日は総会。18時、トーク&コンサート死と生いの意味。2日は分科会。老いと介護。

「講演会」国際環境ボランティアの勧め◆市国際交流センター」5月24日(日)14時。講師はパックストン美登利。無料。定員260人(抽選)。申し込みは5月1日(金)〜21日(水)、☎(435)7000の同協会。「サツキ展◆市緑化センター」5月13日(水)〜31日(日)。☎(911)2177。

学校と教育を解説。3日は全体会。参加費は全期間通し大人2千円、学生千円。トーク&コンサートのみ参加千円。当日直接。詳細は☎020(904)2837の同実行委。鶴川駅下車。「マリエンシネマクラブ◆川崎マリエン」5月24日(日)14時「フィフス・エレメント」上映(字幕スパーバ版)。無料。当日先着300人。詳細は☎(287)6009の川崎港振興協会。

「天体観望会◆川崎授産学園」6月6日(土)19時。月、星座を。雨、曇りは室内で。無料。当日直接。小学生以下は要保護者。問い合わせは☎(954)5011。新百合ヶ丘駅からバス。「講演会」国際環境ボランティアの勧め◆市国際交流センター」5月24日(日)14時。講師はパックストン美登利。無料。定員260人(抽選)。申し込みは5月1日(金)〜21日(水)、☎(435)7000の同協会。「サツキ展◆市緑化センター」5月13日(水)〜31日(日)。☎(911)2177。

「写真撮影会」生田緑地ミニ観察会◆市青少年科学館」①は5月2日(土)23日(土)19時半。二重星、プレセペ星団を。雨、曇りはプラネタリウムで②は6月28日(日)19時。月齢4日の月を。雨中止。対象は小学5年以上(小学生は要保護者)。持参品あり。先着14人③は5月3日(日)は植物マ10日(日)は昆虫マ17日(日)は雑木林を。9時50分同館集合。雨天決行。持参品あり。いずれも無料。申し込みは①③当日直接②5月26日(火)9時から☎(922)4731の同館。

①園内古民家解説ツアー②お茶席の会③こども体験教室◆日本民家園」①は5月2日(土)13時半、原家集合。雨天決行。無料。入園料必要。直接来園②は5月10日(日)10時、佐々木家。一服300円。当日先着百人③は5月23日(土)10時、作田家。わらであしなぞうりを作る。小・高校生。先着10人。無料。入園料不要。申し込み③のみ5月1日(金)から☎(922)2181の同園。

「写真撮影会」生田緑地ミニ観察会◆市青少年科学館」①は5月2日(土)23日(土)19時半。二重星、プレセペ星団を。雨、曇りはプラネタリウムで②は6月28日(日)19時。月齢4日の月を。雨中止。対象は小学5年以上(小学生は要保護者)。持参品あり。先着14人③は5月3日(日)は植物マ10日(日)は昆虫マ17日(日)は雑木林を。9時50分同館集合。雨天決行。持参品あり。いずれも無料。申し込みは①③当日直接②5月26日(火)9時から☎(922)4731の同館。

「写真撮影会」生田緑地ミニ観察会◆市青少年科学館」①は5月2日(土)23日(土)19時半。二重星、プレセペ星団を。雨、曇りはプラネタリウムで②は6月28日(日)19時。月齢4日の月を。雨中止。対象は小学5年以上(小学生は要保護者)。持参品あり。先着14人③は5月3日(日)は植物マ10日(日)は昆虫マ17日(日)は雑木林を。9時50分同館集合。雨天決行。持参品あり。いずれも無料。申し込みは①③当日直接②5月26日(火)9時から☎(922)4731の同館。

学習・文化情報

ききたい音楽がある

ステージ

「①こどもの日コンサート②ソプラノ・ピアノジョイントコンサート③公開講座「朗読で楽しく」◆サカモト・ミュージック・スクール鷺沼校」①は5月5日(祝)14時半開演。「となりのトトロ」ほか。500円②は5月10日(日)14時半。シヨパン「英雄ポロネーズ」ほか。ソプラノは権藤祐子。ピアノは森園直子と西佳子。2千円③は5月24日(日)14時半。講師は西本朝子。2千円。

「①日本語クラスボランティア募集②地域セミナー企画委員募集◆麻生市民館」①は毎週木曜の午前と夜間に開設の外国人のクラス②は地域を学び考える。申し込みは①5月28日か6月4日の授業見学の上、申し込み②5月15日(金)10時から(951)1300の同館。



いずれも当日先着150人。詳細は☎(854)6581。鷺沼駅下車。「奥平哲也マリンバリサیتال◆糞ホール」5月30

7月14日の火曜10時。無料。20人(抽選)。保育あり(2歳以上)②は5月31日〜7月5日の日曜14時。千円(保険料含む)。定員先着30人。申し込みは①はがきに氏名、住所、☎、保育希望者は子供の年齢(月齢)記し、5月22日(金)までに〒215-0000 4万福寺1の5の2、同館同係②は5月9日(日)10時から☎(951)1300。「かわさき市民アンデバ

日(土)14時開演。パツハ「主要人の望みの喜びよ」マシユトラウス「ウイーンの森の思い出」ほかⅡ写真上。ピアノは大形友希子。全自由席2千円。問い合わせは☎(812)6090の同ホール。溝ノ口駅下車。「聖マリアンナ医科大学管弦楽団定期演奏会◆麻生市民館」5月16日(土)19時開演。ベートーヴェン「交響曲第7番イ長調」マ・C・F・グノー「ファウスト」Ⅱ写真下。岩村力指揮。無料。詳細は☎(977)8111内線5840、三浦さん。

ンダン展作品募集◆市教育文化会館」絵画(日本画・洋画・版画)▽写真▽書道。1部門2点まで。出品料は1部門2千円。開催は6月28日(日)〜7月5日(日)。要項は区役所・市民館などで。申し込みは5月29日(金)までに〒210-0007川崎区駅前本町12の1タワリパーク3階、市文化財団同係。☎(222)8821。「①98かわさき市民「第九」コンサート合唱団員募

「津軽三味線◆日本民家園」5月31日(日)11時と13時半。工藤家。演者は木田林松藤ほか。200円(要入園料)。各回先着80人。受け付けは開演1時間前から会



集②同コンサートソリスト・オーディション◆中原市民館ほか」①練習は8月28日〜11月27日の金曜18時半。高校生以上、家族会員は小学生以上も。参加費一般1万3千円、高生8千円、小・中生5千円。楽譜、練習カセット実費。定員230人(抽選)②は6月14日(日)13時、市教育文化会館。ソロパート各部門1人を。市内在住・在勤・在学の人。無料。申し込みは①7月21

場で。問い合わせは☎(922)2181。「川崎市定期能観世流梅若会◆川崎能楽堂」6月20日(土)。第一部13時開演。狂言「井杭」(三宅右近)能「頼政」(角当行雄)▽第2部15時半開演。狂言「雷」(三宅右近)能「百萬」(梅若六郎)。各3千500円(全指定)。前売り5月20日(水)9時から同所で。☎(222)7995。「琵琶法師 北川鶴昇の演奏会◆中村正義の美術館」5月16日(土)16時開演。「壇の浦」決戦。定員50人(事

日)までにはがきに住所、氏名、年齢、☎、歌うパート、第九経験の有無、発音練習希望の有無を記す②の応募は5月15日(金)までに履歴書(写真添付)一通、推薦書一通以上、独語のオペラアリアカリート2曲以上吹き込んだテープを同封し〒210-0007川崎区駅前本町12の1タワリパーク3階、市文化財団同実行委事務局。☎(222)8821。

学習・文化情報

みたい絵がある

前予約)。一般千円、小学生以下五百円(要入館料)。申し込みは☎(953)4936の同館。読売ランド前駅からバス。



ギャラリー



「ギャラリー順子」5月28日(木)～6月1日(月)10～18時「手づくり仲間のラベンダー展」。着物で作った洋服やエプロン、マフラーを展示即売。同所は☎(934)3010。登戸駅下車。

「画廊ランプ屋」5月13日(水)～18日(月)「こぼやしゆう写真展」。アフリカで出会った子供たちの作品40点
▽5月27日(水)～6月1日(月)「田村あや／野花を描く」かれんな水彩画。☎(945)4416。稲田堤駅下車。
「中村正義の美術館」5

スポーツ



①スポーツデー②トレーニング室開放◆とどろきアリーナ」年間通じて①は毎週火曜10時～11時はエアロビクス。13時～16時半はパドルテニス・新卓球・ソフトバレーボールマ毎週水曜10時～11時半はリフレッッシュ体操。13時～16時半は

ミニバスケットボール・トランポリン。17時半～21時はバスケットボールマ毎週木曜19時～20時はエアロビクスマ毎週金曜10時～11時はエアロビクス。13時～16時半と17時半～21時は卓球・バドミントン②は火～日曜9時～12時マ13時～16時半マ17時半～21時、専門員の健康チェック・体力相談あり。用具は持参。18歳未

満150円、18歳以上300円。☎(798)5000。
①卓球教室②ソフトエアロビクス③やさしいヨーガ④ジャズダンス◆会館とどろき」来年3月までのスポーツ教室①は毎週月曜10時～12時マ13時～15時。講師は岡野恵美子・日本体育協会公認スポーツ指導員②は毎週月曜18時半～20時。講師は関口美恵子・ミエコ

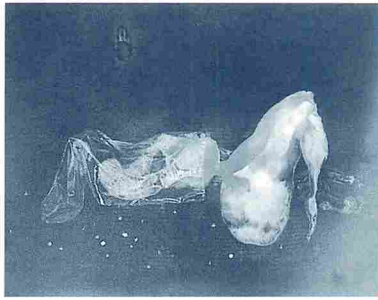
スタジオ主宰③は毎週火曜10時～11時半。講師は坂田旭子・ヨーガ研究家④は毎週水曜18時45分～20時15分。講師は角照美・SUMIスポーツクラミング主宰。いずれも入会金2千円。受講料は毎月①は各3千2百円②③④は4千2百円。申し込みは随時。入会金・受講料を添え直接来館。☎(733)3333。

月9日(土)～6月7日(日)、中村正義と人人展・星野眞吾。日本画の既成画壇に一石を投じた星野の作品(安息地)Ⅱ写真Ⅱほか。一般500円、学生300円、小中生200円。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。

「スナック喫茶琴」5月4日(月)～30日(土)、大場澤子「花風景」油絵展。問い合わせは☎(544)0507。鹿島田駅下車。

西田秀穂「写真展」。ヨーロッパの町並みと看板デザインマ井上泰助「絵画展」。無料。☎(344)6444。川崎新町駅から徒歩。

8)2138の同代表。
訂正 4月号「はりきつてます グループ紹介」書友会の3ページ3段目「この四文字は…」から4行を削除し「この四文字は中国で南北朝時代に編さんされた詩『千字文』の臨書」を挿入します。



「ギャラリー幸」5月6日(水)～20日(水)「常設展」マ5月22日(金)～27日(水)、花とメルヘン「弥忍公泉個展」。☎(555)8181。川崎駅西口下車。
「会館とどろき」5月7日(木)～19日(火)、退職教師6人の絵画展「六合会展」。杉田一男・栗原慶果・勝俣泰蔵ほかの日本画、水彩画。☎(733)3333。
「アートホール新町」5月6日(水)～30日(土)11～18時。

会員募集



●川崎水墨画サークル
《高津区下作延175の1の211、池水節子代表》

季節の風物行事を一筆がきで楽しみませんか。初心者も歓迎です。見学に来てみて下さい。活動は、第一・3土曜14時から、市教育文化会館。入会金なし、月会費2千円。連絡は☎(88

ミニニュース

時空超え新芸術創造

みやまえロビコンサー
みやまえロビコンサー
トが3月18日、同区役所であり、幼児からお年寄りま

での市民120人が、日本昔話「鶴女房」を楽しんだ。小島光代さんの「ひとり語り」と松実健太さんのヴィオラ演奏という異色の共演。聴衆は、しっとりした情感あふれる口調の語りと、哀愁を帯びたパッサリの曲の演奏が物語に真実味を与え涙を誘う。数百年前の東西の物語と音楽が時空を超え新たな芸術を創造(Y)。

介護保険欠陥是正を

岸田さんが講演と出版
介護保険を考える講演会が3月28日、麻生市民館視聴覚室であり、講師の岸田孝史・緑陽苑事務長が、要介護認定のための第一次判定を同苑入居者に実施して、コンピューター入力したが「入居者全員の要介護認定基準が不正確だった」と話した。制度施行の2000年に向け憲法、老人福祉法の立場から、同保険法の問題を点を明らかにし、福祉の不足を市の施策の中に組み込むよう求めることが市民の仕事と述べた。グループ「びらすー」の主催(Y)。
また、岸田さんはこのほ

ど「措置制度と介護保険」の公的責任制度の再構築をめざして(萌文社、千2百円)を出版。2年後、同法が施行されるが、戦後の福祉制度の歴史と役割、意義を記し、福祉とは、介護保険とはを問い掛けている。先日、当編集室を岸田さんが訪れ、本人がゲストの3月号は「記事が分かりやすくまとまっています。僕の写真、うちの女房」修整してらんじやない」って……」。スタッフ一同爆笑(I)。

荒れる子供の要因は

高橋眞知子さん講演

9歳の息子を白血病で亡くし、中学校の臨時教師の高橋眞知子さんが、このほど高津市民館で「いのちについて考えよう」と題し講演し、荒れる中学生問題について「学校、地域で、生についての討論が行われていない」と指摘するとともに「いまの子供は、思い合いの想像力がない。けんかをして、次のことが想像できればナイフで刺すことはない。教師は、子供の心を耕そう」と述べた。ままと

んきつすの主催(Y)。
自分史に講評つけて

みのり会が文集第5号

自分の歴史を綴る「みのり会」が、このほど、文集「みのり第5号」を刊行した。各会員の文章の後に、他の会員からの講評も載せた初の試みは、同会が高津市民館で文章を書くことと同時に、文章を見る目を養う学習してきた成果。同号は、会員の手書き原稿を同館の長田俊一職員がワープロ打ちして作ったB5判105ページ(Y)。

特技は東大卒業!

制御装置解除しよう

「女声合唱団ゆり」のメンバーと指導者の武田雅博さんの歓談。マスコミが、倒産した山一証券の39歳の男性が、再就職の面接の際「特技は何ですか」と聞かれ「東大を卒業したことです」と答えたという。武田さんは「心の思いを声で表現する歌は、体中の制御装置が解除され開放される」と話す。子供に制御装置を付けさせるな!(Y)。

編集後記

県立多摩高
合唱部の定期
演奏会が三月
三十一日夜、
麻生文化セン
ターであった

▼同校生徒の

父母でもOBでもない私だが、エキサイトし、感激し、涙した▼混声合唱のレベルの高さにか、組曲や唱歌メドレーがそうさせたのか▼本当のところは、演奏会全体の雰囲気にあった▼「もの書きの端くれが、情緒的過ぎる」とおしかりを受けそうだ▼指揮者の相馬裕次教諭や岩本達明教諭がステージの袖から姿を現すだけで、生徒(合唱団員)の表情が緩み込む▼高校のスपोर्ट系で、生徒が監督(教諭)に呼ばれたときの表情と、いい意味で異質である▼二回の休憩時間は、ミニクラス会、ミニ同窓会の趣▼嬌声があがったほうを見ると「○○先生、来ていたの。こんな前(の席)に居るんだもの」▼六、七人の若い成人女性?が中年の女性教諭?を囲んでいた▼に

ざやかな教諭と卒業生との雑談の輪がいくつも出来て、この時間だけは演奏会のムードが消える▼演奏会がクライマックスを迎え、谷川俊太郎作詞、三善晃作曲の「ぼく」より」をアカペラで歌うところ、涙を懸命にこらえて歌う女生徒の姿が目立つ▼団員の半数弱を占める三年生が、この演奏会を最後に、「在校生」から「卒業生」になることと無関係ではない▼「合唱部OB、OGのみなさん、ステージへお上がり下さい」のアナウンス▼ヘンデル作曲「メサイア」の中の「ハレルヤ」は、客席からの声も加わり世代を超えた大合唱となった▼学校の安全が崩れ、人間同士の信頼が薄れて久しいが、ここには先生と生徒の対話、縦横のつながりがある▼「出来のいい生徒の多い多摩高だから」の声もあるが、かつては当たり前前の光景なのだ▼この日、中教審は「心の教育」の中間報告を出した▼もっともな内容だが、どう実践するのが気掛かり(田)。

かわさき市民アカデミー 修了式と入学式開く

自立は話し合いと行動から

修了生

楽しむ学びの実践に感動

市教委

「かわさき市民アカデミー」(学長・高橋清市長)の第五回修了式が三月十四日、市中小企業・婦人会館であり、六十単位を取得した六十五人の修了生が学び・集い・研究した成果を地域に還元することを誓い合った。また、新入会生九十二人を迎えた、アカデミー第七回生入学式が四月四日、同会館であり、会員の自治組織「友の会」の佐野清次会長らが新会員を励ました。三人の新会員代表は「新しいことを得るため入会。仲間とのふれあいで自分を豊かにしたい」と期待を話した。

第五回修了式

修了式は、会員や生涯学習関係者ら百人が見守るなか、篠原一・学長代行(東京大学名誉教授)が修了生一人ひとりに修了証書を授与した。

篠原学長代行は「修了記念文集『学びの記録』は、年々充実している。本来教育は、一人ひとりが、どれだけ成長し人間の幅が広がったかという絶対評価が大切である。アカデミーのみなさんは、間違いなく飛躍的進歩をされている」と



松森裕子さん



松野國雄さん

話し「人間は年を重ねると禁欲的傾向になりがちだが、したいことを実行する『脱禁欲』の精神で、今後とも挑戦してほしい」とあいさつした。

また、伊藤長和・市教委生涯学習推進課長(教育長代理)は一修了生の中に四、五年にわたり学び続けてこられた方がいて感動した。それは、人が生涯にわたって成長し発達するには、自分に合った速度で、学びを楽しみ続けることの大切さを教えているからである」といい、同課長自身の体験として、四十歳過ぎてハンゲル語を学び始め、そのことを通して「新しい発見や出会いがあり、人とのつながりができて、若干、心豊かになったと感じている」と話し、修了生から共感の拍手があった。

修了生を代表して、松森裕子さん(九三年度、人間学コース)と松野國雄さん(九六年度、同)が学園生活を振り返った。

松森さんは「私は一回生の入会。『学校は決められた期間に修了するところ』との思い込みがあったが、アカデミーに長く在籍し修了出来てうれしい。この間に自分は成長したと思う」と素直に感激。

「二年前から不登校の子供を持つ親たちと交流しているが、ここで学んだことを少しでも社会還元できるように活動を続けていきたい」と話した。

松野さんは「二年間があつという間に過ぎた。川崎学を学んだことと学園祭の実行委員をしたことが印象に残っている。川崎学は、実際に街に出ての体験学習。川崎在住だが、その歴史や風土を知らなかった。学んできて他の人に、『川崎の歴史』を話せるようになった」と川崎市民の誇りをにじませた。

自分の豊かさ求めて 新会員 より良い学びめざす 友の会

第七回生入学式

入学式は、講師陣や「先輩」などが出席して、歓迎と連帯の厳粛で心のこもった式となった。

友の会の佐野会長は「この二年間、レベルの高い講義を聴くことができた。真剣に学ぶため、健康管理に留意するので、アカデミー

せた。さらに「学園祭は、準備のときから、いろいろ議論し上からの押し付けでなく、自分たちで話し合いの問題を解決していった。そのことの大切を学んだ」と市民の自立・民主主義をいきいきと語り、「アカデミーで学んだこと、出会った仲間が人生の財産。これを糧に地域活動に積極的に参加して行きたい」と力強く結んだ。

アカデミーの修学期間は二年だが、五年以内に単位を取ればよく、今回の修了者は一回生四人、二回生二人、三回生三人、四回生十二

は知識だけでなく、健康にもいい」とユーモアを交え話し、友の会の大きな目的の一つに「アカデミーの運営委員会と意見交換をして、自分たちのコースをよりよくしていく使命がある」と話し、友の会への参加を呼び掛けた。

また、新会員代表の近藤幸子さん(研究系)片岡政昭さん(表現

人、五回生四十四人の計六十五人で、修了者の三分の一にあたる二十一人が三年から五年かけてのマイペース学習で修了となった。

●修了者のひとこと●
上野吉利さん(みどり学コース) 電気関係のエンジニアだったが、仕事をやめボケ防止のため入学し、楽しく学べた。
堤政子さん(居住福祉コース) 夫を亡くし長男が独立、一人になった。新しい生き方を見つけたたいと入学。みんなに助けられてここまで来れた。

系)波多ヒデヨさん(生活系)が自らの足跡を交え、入会の動機やアカデミーへの期待をいきいきと話した。
近藤さんは「今年一、二月まで



新入会員を励ます佐野清次・友の会会長

会社勤めをしていたが、この辺で自分を見直してみたいと思っていた時、アカデミーの会員募集を知り入会した。私は、人間が大好きで、人生経験豊かな講師や仲間とのふれあいと出会いを楽しみにしている。そして将来『自分の一生が自分自身で決められる生き方だった』といえるようにしたい」と話した。

片岡さんは「私のアカデミーへの入会の目的は二つ。一つは、子供の時から小説が好きで、アカデミーで文学のおもしろさとは何かを追求し、ある結論に達したら、形にしたい。二つめは、二十数年間川崎に住んでいるが、地域社会がどんなところか分からないので、川崎学で学び、川崎の人達とのつながりを強めたい」と述べた。

波多さんは「私の入会の動機は、半分は不純。二年前、夫が病で倒れ、現在訪問看護の方に来ていただいております。週一、二回なら外に出られる。カメのようにのろのろと学んでいきたい」と言った。

新会員の「決意表明」は、生活に根差したもので新会員一人ひとりが、自分の目標をもって入会してきたことを示唆している。